

平成28年度第1回島根県職業能力開発審議会 委員発言要旨

1. 日 時 平成28年7月13日（水） 13:30～15:30
2. 場 所 サンラポーむらくも 瑞雲の間
3. 議 題
 - (1) 第9次島根県職業能力開発計画の総括について
 - (2) 第10次島根県職業能力開発計画について

○委員からの発言要旨

- ・企業側は人を育てて技能士にさせるとか技能を持つということ、専門的な知識を持ちながら働くことは、本人の未来のため、会社の未来のためによくなるという意義づけをぜひどこかに入れていただきたい。
- ・IT人材育成をプログラマ養成だけにとどめるのではなく、ものづくり・デザインなどとの協働や融合など、次代にむけたアクションに関する支援も必要ではないか。
- ・新しい6次産業化に向けての何か島根らしい提言、具体的な施策がないか。
- ・島根県が一大産業立国を目指した時代の「たたら」というものを職業能力開発計画の中にキーワードとして入れてはどうか。
- ・企業の人材育成体制の整備については具体的な計画等を聞き、今後、大学教育と連動を図っていきたい。
- ・キャリア教育という言葉について意識のすりあわせが必要ではないか。キャリア教育の展開の方向性が少し見えづらいのではないか。
- ・普通高校でも職場体験、学校訪問、職場訪問をしていく必要がある。
- ・島根県の新入社員の離職率が高いという課題に対してどのような施策を講じているか。
- ・高等技術校で27年度は1名の未就職があったので、未就職がないように10次計画に活かしてほしい。
- ・県外の学生と県内の企業が交流する機会を積極的に持たれてもよいのではないか。
- ・働きたい女性が働き切れるような環境という視点を入れると生産性や労働者人口が上がるのではないか。
- ・島根県では女性が暮らしに合わせて働く支援が整っているように見えるが、もう少し支援の重層化が必要ではないか。

- ・アビリンピックが何か資格につながっていくと、自信になり今後の就労につながっていくのではないか。
- ・障害者差別解消法を踏まえた上で企業や就労先にバリアフリー化等の環境整備の努力や合理的配慮についてお願いできないか。
- ・地方創生ということから、女性の活躍、若者の活躍に大きく力点を置くべき時ではないか。数値目標について細分化し、重点的に取り組んではどうか。
- ・今後5年間に若者の意識はがらりと変わるのではないかと思う。現状での目標を作ったのでは5年後は差異が生じている、意識の変化に追いつくような数値目標を取り入れられないか。
- ・女性の就業形態や職場の風土を変えていくという目標を一つ入れていただきたい。
- ・企業自ら欲しい人材や仕事の内容を求職者にアピールすることに対する支援が長期雇用につながるのではないか。
- ・企業のPRしたいところの情報を集めるような窓口があってもよいのではないか。県外の学生が県内企業を見学するような機会等が今後たくさんあるように、計画に明示してほしい。
- ・行政が各企業、業種、業界への企業訪問を積極的に行われたほうがよいのではないか。